群教セ	G10 － 01
	平27.257集
	道　徳

自己を見つめさせ、道徳的実践意欲を高める指導の工夫

――本音を引き出す発問の工夫と体験活動を生かした話合い活動を通して――

特別研修員　廣木　直美

Ⅰ　研究テーマ設定の理由

はばたく群馬の指導プランでは、道徳的実践力を育成するために、「児童一人一人が道徳的価値の自覚及び自己の生き方について考え方を深められるような指導過程や指導方法の工夫」の大切さを示している。

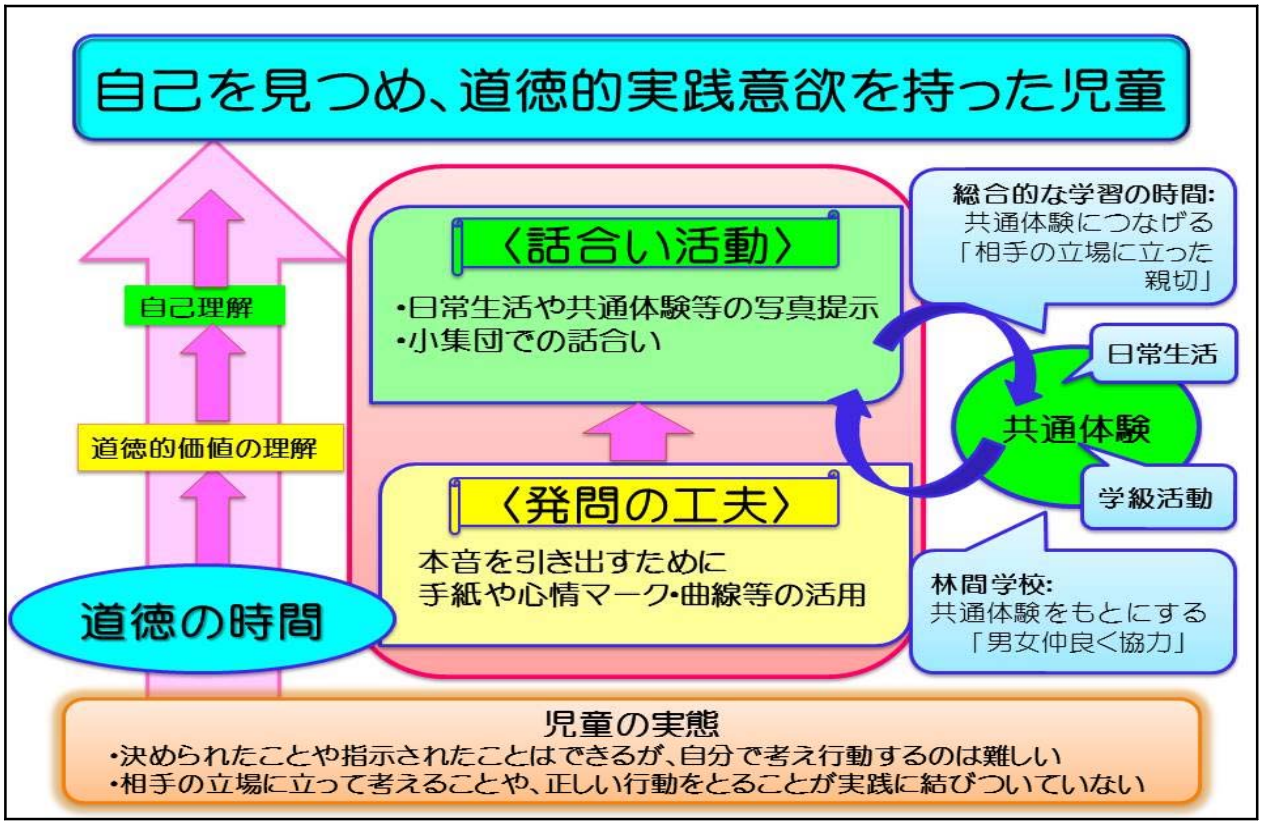
また道徳教育は、各教科や特別活動など学校の教育活動全体を通じて行うものであり、道徳の時間はその要として、実際の経験や体験を生かしながら、道徳的価値などについて補充・深化・統合することが必要である。

児童の実態として、道徳の時間では価値に迫る正しい発言ができることが多い。しかし日常生活では、善悪の判断はできるが正しい行動がとれなかったり、相手の立場に立って考えることができなかったりするなど、実践に結びついていないことが課題である。

そこで、道徳の時間において各教科・行事等の体験活動と関連付けた学習を行い、道徳的価値などについて補充・深化・統合する必要があると考える。そのためには、道徳の授業で、資料をもとに児童の心を揺さぶり本音を引き出せるような発問を工夫したり、共通の体験活動をもとにした話合いによって、自分の考えを伝えたり友達の考えを聞いたりする活動を行ったりすることが大切である。そのような活動を行えば、自己を振り返って自己を見つめ、道徳的実践意欲を高めることができると考え、本主題を設定した。

Ⅱ　研究内容

１　研究構想図



２　授業改善に向けた手立て

(1) 実践１における研究上の手立て

①発問の工夫
・主人公の気持ちの変化に共感できる補助発問と、価値理解を深める中心発問（主人公の気持ちを、手紙に書く）
②話合い活動の工夫
・体験活動（林間学校・学活等）をもとにした小集団での話合い活動

資料は、「言葉のおくりもの」内容項目２－（３）「男女の協力」である。発問の工夫としては、三人の登場人物の関係と場面の状況を確認した後、補助発問で主人公の行動と心情の変化をおさえた。中心発問では、主人公の気持ちを手紙に書かせることで、価値理解を図った。また、自己の振り返りでは、写真を提示しながら、林間学校や学活等の体験活動をもとに小集団で話し合うことで、全員が自分自身を振り返りワークシートに記入することができた。さらに、「男女が仲よく協力するために大切なことは何か」を話し合うことで、今後の実践意欲につなげようと試みた。しかし、資料の読み取りに時間がかかり、話合いの時間が十分に確保できず、表面上の意見にとどまってしまった。

そこで実践２では、資料読み取りの時間を短縮し、児童の本音を引き出した上で実践の意欲につなげるために、以下のように手立てを改善した。

(2) 実践２における研究上の手立て

①発問の工夫
・主人公の葛藤する気持ちに共感できる補助発問（主人公の気持ちを捉えるための心情マークと曲線の活用）と本音を引き出す中心発問
②話合い活動の工夫
・体験活動（総合的な学習の時間・学活等）に生かす小集団での話合い活動

資料は、「くずれ落ちた段ボール箱」内容項目２－（２）「思いやり・親切」である。発問の工夫としては、登場人物と場面の状況を簡単に確認しながら補助発問をし、心情マークと曲線を活用して、主人公の心の動きを捉えやすくし本音を引き出した。中心発問では、自分の行為が認められて嬉しい反面、誤解されて悔しいという複雑な気持ちを捉え、価値理解を図った。また、自己の振り返りでは、写真を提示しながら、親切にできた体験を共有した後、親切にできなかったことや理由、その時の気持ちと改善策を小集団で話し合った。さらに「本当の親切とは何か」を考えさせると、児童から「思うだけでなく、自分から行動する」という意見が多数出され、実践意欲につながったと言える。その後の総合的な学習の時間の体験活動では、相手のことを考えた交流計画を立て、実際の交流でも自分から声をかけ積極的に活動する姿がたくさん見られた。

Ⅲ　研究のまとめ

１　成果

○　主人公の気持ちの変化や葛藤する気持ちについて、手紙や心情マーク・曲線等を活用しながら、児童の本音を引き出す発問を工夫することにより、多様な考えを引き出し、道徳的価値を深めることができた。

○　自己の振り返りの場面で、共通体験等の写真を提示して共有化を図りながら、小集団での話合い活動を取り入れたことで、友達の考えのよさに気付き、自分の考えを再考しながら自己理解を深め、道徳的実践意欲が高まった。

２　課題

○　道徳的価値の自覚を深めるための発問の工夫や、補助発問の精選、また中心発問において小集団での話合い活動を取り入れ、意見交流させる等の工夫も必要である。

○　道徳の年間計画と別様を見直し、道徳の時間と各教科・行事等の体験活動とを関連付けた学習を、さらに計画的に行っていく。

＜授業実践＞

実践１

１　**主題名**　　男女の協力　内容項目２－（３）信頼・友情　（第５学年・１学期）

　　資料名　　「言葉のおくりもの」　文渓堂

２　本主題及び本時について

本主題は「男女の協力」であり、「互いに信頼し合って友情を深め、男女仲良く助け合おうとする態度を育てる」ことをねらいとしている。児童は、男女仲良く助け合うことの大切さは分かっているが、自然と別れて活動したり、協力や思いやりに欠ける言動が見られたりする。そこで男女が互いに理解し合い、協力し助け合おうとする態度を育てたいと考えた。

まず、学級活動で事前に「私たちの道徳」P72「たがいに信頼し、学び合って」を活用し、友達とは何かや友達との付き合いで大切なことや男女の友情について考えたりした後、林間学校へ行き共通体験を行った。その後、道徳的価値の補充を図るために、本資料で道徳の授業を行った。展開前段では、発問を工夫して、自分の考えをもたせながら価値理解を深めた。また展開後段では、林間学校等の体験活動をもとに、小集団による話合い活動を取り入れ、自分を振り返らせ、道徳的価値の自覚を深めるとともに「男女仲良く協力するために何が大切か」を話し合うことで、課題を明らかにし今後の道徳的実践意欲を高めることにつなげた。

３　授業の実際

導入では、アンケート結果を提示し、「友達がいてよかった経験」を発表し合うことで、男女の友情についても気付かせ価値への方向付けをした。

展開前段では、資料を紙芝居形式で提示し、三人の顔の絵を貼って関係を整理することで、内容を捉えやすくした（図１）。補助発問では「すみ子との関係を冷やかされた時」「たかしを慰めるすみ子の言葉を聞いた時」の一郎の気持ちに共感させた。次に中心発問では、信頼・友情について気付かせるために、すみ子からの『言葉のおくりもの』を聞いた時の一郎の気持ちを、すみ子への手紙としてを書かせた。

図１　三人の関係を明確にする板書

中心発問：一郎はすみ子にどんな手紙を書くか。	
○ごめんね ―自分の行動を反省―	・からかわれることを気にして、怒ったりしてごめんね ・ひどい言葉「近づくな。」などを言ってごめんね。 ・いばったり冷たい態度をとったりして傷つけたね。
○ありがとう ―理解への感謝―	・誕生日の時の「言葉のおくりもの」嬉しかった。 ・優しくしたり、励ましたりしてくれてありがとう。 ・ぼくの気持ちを分かってくれてありがとう。 ・ぼくのよいところを褒めてくれてありがとう。
○ずっと友達 ―今後の行動―	・からかわれても気にしないので、仲良くしてね。 ・これからもずっと友達だよ。よろしくお願いします。 ・ぼくも、誰にでも優しいすみ子さんのようになりたい。

図２　ペア交流の様子

まずワークシートに自分の考えを書いてから、ペアで話し合うことで(図２)、互いの感じ方や考え方を交流させた。次に全体で発表し合った。多くの児童が自信をもって発表することができ、多様な考えが出された。自分の行動を反省した「ごめんね」、理解への感謝を表した「ありがとう」、今後の行動を考えた「ずっと友達」の三種類の気持ちに類型化することで、価値理解を深めた。

展開後段では、林間学校（ポスト探し・うどん作り）や調理実習、委員会活動等、９枚の写真を提示したことで(図３)、「男女関係なく、仲良く協力できたこと」について、87%の児童がワークシートに自己の振り返りを書くことができた。また、林間学校等の共通体験をもとにして、小集団での話合いをすることによって(図４)、自己の振り返りを書けなかった13%の児童も、友達の考えを聞いて、ワークシートに書くことができた。

図３　共通体験の写真提示

図４　小集団での話合いの様子

話合い後にワークシートに記入できた児童：S③　S⑤
S1　：林間学校のポスト探しで、男子が先頭を行ってポストを見てくれました。 S2　：ポスト探しで疲れてしまった私のために、途中で休憩をとってくれて、優しいと思いました。 **S③　：ポスト探しでみんなと協力できた。**（ワークシートに記入）
S4　：うどん作りでこねる時、力がある男子がやってくれました。 **S⑤　：そういえば、うどん作りの時、男子はあまり包丁になれてないので、女子がやってくれた。**（ワークシートに記入）

さらに、「男女仲良く協力していくために、大切なことは何か」について、小集団で話し合うことによって、自分なりの考えを伝えたり、友達の考えのよさに気付いたりすることができた。また、今までの自分を振り返り、「これからはこうしていきたい」と実践につながる次のような意見がたくさん出た。

・今まで、男女を気にしていたけど、男女関係なく仲良く協力したい。
・男女で仲間はずれにしたり、無視をしたりせず、相手のことを考えて優しく接すればいいと思う。
・誰かが困っていたら、男女関係なく声をかけたり助けたりする。

日常生活の中での姿

清掃の時間に、分担を決め、順番で交代しながら男女で協力して取り組む姿が見られるようになった。また、家庭科の裁縫や算数の課題で分からないところを教え合ったり、話合い活動で、お互いの意見を尊重し合ったり姿も見られるようになった。

４　考察

○　補助発問で、主人公の気持ちの変化に共感させ、本音を引き出す中心発問をすることで信頼・友情に気付くことができた。またペアでの話合い活動を取り入れたことで、互いの感じ方や考え方を交流することができ、価値理解を深めることができた。

○　資料の読み取りに時間がかかり、自己の振り返りの時間が少なくなってしまったので、資料提示の仕方や時間配分を工夫する必要がある。

○　展開後段では、体験活動の写真を提示したことで、大多数が自己の振り返りをワークシートに記入することができた。また、小集団で話し合うことで、自分の考えを伝えたり、友達の考えのよさに気付き、考えを再考したりすることができ、自己理解を深めた。しかし、表面上の意見が多く見られたので、今までの行動だけでなく、その時の気持ちも一緒に考えさせることで、児童の本音を引き出し、今後の道徳的実践意欲につなげていく必要がある。

実践２

１　**主題名**　　相手のことを考えて　内容項目２－（２）思いやり・親切　（第５学年・２学期）
　　資料名　　「くずれ落ちた段ボール箱」　文渓堂

２　本主題及び本時について

本主題は、「相手のことを考えて」であり、「誰に対しても思いやりの心をもち、相手の立場に立って親切にしようとする意欲を育てる」ことをねらいとしている。児童は、親切にすることの大切さは分かっているが、自分と関わりの深くない相手には無関心であったり、恥ずかしがって何もできなかったり、自己中心的な言動をとったりしてしまう。そこで、誰に対しても、相手の立場に立って積極的に親切にしようとする態度を育てたいと考えた。

展開前段では、資料を前半・後半に分けて紙芝居形式で提示したり、心情マークや曲線を活用しながら葛藤する二人の気持ちを考えさせることで、本音を引き出しやすくした。また展開後段では、写真や絵を提示しながら小集団による話合い活動を取り入れ、親切にできなかった自分を振り返らせ、道徳的価値の自覚を深め、深化を図った。さらに相手の立場に立って考え、どのように接し、対処することがよいのかを話し合うことで、道徳的実践意欲につなげた。

３　授業の実際

導入では「親切にしたこと・されたこと」や「迷子の子に声をかけられるか」「重い荷物をもって困っているお年寄りを手伝えるか」等のアンケート結果を提示することで価値への方向付けをした。

展開前段では、事前に資料を一読する機会を設けたり、紙芝居形式で資料を提示し、それを場面絵として活用しながら登場人物と状況を簡単に確認したりすることで、内容を捉えやすくし、資料読み取りの時間を短縮した。また資料を前半・後半に分けて提示したり、板書（次頁図５）では、心情マークと曲線を活用したりして、心の動きを捉えやすく示し、本音を引き出し、ねらいとする価値に迫った。

葛藤する気持ちに共感させる補助発問

＜状況確認＞

段ボール箱をくずす
男の子は行ってしまう
誰も手伝わない
おばあさんが整理

⇒

Ｔ：困っているおばあさんの様子見た二人は、どんなことを考えたかな？
S1：大変だな。私たちが手伝ってあげよう。
Ｔ：少しの間ながめていたのはなぜ？
S2：知らない人に声をかけるのは恥ずかしいから。

店員さんが来て誤解
まわりにたくさんの人
わけを説明できない

⇒

Ｔ：店員さんに叱られた二人はどんな気持ちだった？
S3：手伝わなければよかった。
S4：何で怒られるんだろう。最悪だ。

本音を引き出す中心発問　：おばあさんにお礼を言われた時、二人はどんな気持ちだったか？

手伝ってよかった　―相手の立場―	手伝わなければよかった　―自分の立場―
・おばあさんに褒められて嬉しい。 ・男の子が迷子にならずに見つかってよかった。 ・役目が果たせてよかった。 ・おばあさんを助けられて、役に立ってよかった。 ・みんなが手伝わなくても、手伝うことはやっぱり大切だ。	・おこられてショックだ。 ・叱られて嫌だった。 ・ちょっと災難だった。 ・こんなことになるなら、手伝わなければよかった。 ・店員さんおこられて、あまりうれしくないな。

まず十分に時間をとり、全員にワークシートに自分の考えを記入させてから、ペアで話し合うことで、互いの感じ方や考え方を交流させることができた。次に全体で発表し合い、「手伝ってよかった」「手伝わなければよかった」に類型化したり、心情マークや曲線を活用したりして価値理解を深めた。

図５　心情マーク・曲線の活用

心情マーク

展開後段では、「３年生との交流」「お年寄りとの交流」等の４枚の写真を提示し、「相手の立場に立って親切にできたこと」を振り返ってから、「相手の立場に立って親切にできなかったこと」を、ワークシートにまとめ小集団で話し合った（図６）。

T　：相手の立場に立って親切にできなかったことはある？
S1　：小さい子が泣いていたけれど、知らない子だし、恥ずかしいので声をかけられなかった。
S2　：サッカーボールが飛んできたが、遊びに集中していたのでとってあげられなかった。
S3　：友達がケンカをしていたのにこわくて止められなかった。
T　：どうすればよかったかな？
S①：勇気を出して声をかけてあげる。
S②：自分のことだけでなく相手のことを考える。
S③：勇気を出して止める。先生に言う。

図６　小集団での話合いの様子

さらに、解決策についても話し合った後に、「本当の親切について」全員で考えた。事前アンケートでは、30％の児童が、「迷子の子に声をかけられるか」「重い荷物をもって困っているお年寄りを手伝えるか」の質問に「いいえ」と答えていたが、その理由のほとんどは「恥ずかしい」や「自分のことを優先」であった。自己の振り返りでは、これらの児童は次のような意見を書いていた。

・これからは、声をかけてあげようと思うだけでなく、勇気を出して行動していきたい。
・誰に対しても、ちゃんと相手の気持ちを考えて行動したり、助けたりしたい。

その後、総合的な学習の時間や学級活動において、次のような姿が見られた。

総合的な学習の時間での姿

「お年寄りとの交流」計画では、目・耳・手足等が不自由なお年寄りにそれぞれどう接したらよいかを真剣に考え、交流内容を工夫していた。また実際の交流では、自分から積極的に声をかける児童が多く見られた。大型トランプや音当てクイズ、劇・昔遊び等、相手に合わせて臨機応変に対応する姿も見られた。

学級活動での姿

「３年生との交流」では、ドッチボールや障害物リレー等で、やり方を優しく説明したり、勝敗にこだわらず、失敗した３年生に励ましの言葉をかけたりする姿が多く見られた。

４　考察

○　補助発問で、主人公の葛藤する気持ちに共感させたり、心情マークや曲線を活用し心の動きを捉えやすくしたりすることで、主人公の複雑な気持ちに気付かせ、本音を引き出すことができた。しかし、たとえ認められなくても親切にすることの大切さについても、さらに気付かせていく必要がある。

○　展開後段で、小集団での話合い活動を取り入れ、親切にできなかったことと改善策について友達と意見交流したことで、自分の考えを再考しながら自己理解を深め、今後どうしていきたいか前向きな意見がたくさん出された。